



“Where is America in Bible Prophecy?”

Amir Tsarfati

「聖書預言のどこにアメリカはあるのか？」

アミール・ツアルファティ

皆さん、シャバット・シャローム！

「主に感謝するのは、良い事です。いと高き方よ。あなたの御名にほめ歌を歌うことは。」

アーメン？

これは、詩篇 92 篇、安息日のために書かれた唯一の詩です。今日、ここでお話出来ることを大変光栄に思います。今日お話しするのは、恐らく、今話題のテーマでしょう。

「アメリカは聖書預言のどこに出て来るのか？」

アメリカは、聖書には出て来ません。さよなら…(笑)というのではなく。何となく軽くあしらうのは簡単です。明らかに、アメリカは聖書には出て来ませんから。

アメリカは新しい国で、アメリカという言葉は、アジアから完全に離れた、新しい大陸を発見したイタリア人探検家および、地図製作者、アメリゴ・ヴェスプッチのラテン語名を女性化したものです。ということで、「アメリゴ」→「アメリカ」。これが名前の由来で、聖書の中には登場しません。しかしながら、現代の国名で聖書に記載されていないのは、アメリカだけではありません。現代の国名で記載されていない国は、他にも多数あります。ロシア、トルコ、イラン、スーダン、リビア、ヨルダン。これらの国も、聖書にはこの名で記載されていませんが、これらの国々が、聖書に出て来ることを私たちは知っています。ですから、聖書に名前が出て来ないからと言って、聖書預言で何の役目も果たさないとは、私は結論づけません。聖書預言の中の、アメリカの役目を見るためには、まず聖書預言が何であるのかを、私たちは理解しなければなりません。なぜなら、それはピルグリム・ファーザーズ（書記注：アメリカに渡ったイギリスのピューリタン（清教徒）たち。1620 年、北アメリカ大陸に上陸し、キリスト教徒にとっての理想郷を目指した。）でもなければ、ティーパーティー（2009 年からアメリカ合衆国で始まった保守派のポピュリスト運動）でもなく、西側を再び落ち着かせることでもないからです。皆さん、理解しておいてください。

歴史の中で初めて与えられた聖書預言は、創世記 3:15 です。蛇について。サタン自身について、です。覚えていますか？どのように、かかとで踏み碎かれるのか。それも、誰が行うのか？女の子孫（たね）です。ですから、聖書預言の本題を、ずっと初めに戻って見れば、世の問題が理解できるでしょう。つまり、この預言が宣言されて以来、サタンが防衛しているのです。この女の子孫（たね）とは誰か？女が子孫（たね）を持つ、とはどういうことか？これは明らかに、イザヤ書 7:14 のことを指しています。

14 …見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を「インマヌエル」と名づける。

(イザヤ書 7:14)

「インマヌエル」とは、誰ですか?

「神は、私たちとともにおられる。」(マタイ 1:23)

イエシュア、イエスご自身です。

このように、最初であり、最も重要な預言は、敵に、その終わりが来ることを警告したもののなのです。アーメン? 良いですね? そして、一般的にその終わりをもたらすのはイエスですが、私たちが理解しておくべきは、創世記 1:28 で神がアダムとエバに対して言われた事です。彼らが生子、増やし、地を従えることは、神の祝福であると、聖書は言います。これは、イスラエルの将来の予型で、だから神は創世記 17:1~8 でアブラハムを祝福し、彼の子孫、地を祝福し、彼を通して、この計画を復活させておられるのです。この3つは、アダム契約にも出て来る、3つの要素です。このように、聖書預言とは何かを理解しようとするなら、創世記にさかのぼって、アブラハムに始まり、神がどのように人類に向き合ってきたかを見るのです。そして、人の墮落があって、洪水があり、神は、同じ計画を、アブラハムを通して、同じ3つの要素を持って復活させられました。とても興味深いのは、アダムとエバが園で罪を犯した時、神はアダムやエバよりも先に、蛇に告げられました。そして、その預言が告げられるや否や、それを成就させる次の幕が始まりました。先ほど言った通り、サタンが直ちに防御に入ったのです。ですから創世記 3:15 以来、4000 年間ずっと、敵は不可能な業務を終えようと必死でした。女の子孫を絶やすことです。アメリカに関するメッセージで、私がこれを行っている理由は、敵が、常に世界の大国を利用して来たからです。最初は女の子孫を好み、それから敵対してきます。敵が、メシアの生まれるのを止めようとしては失敗する様を見るのは、とても興味深いです。それも、大失敗です。次に、敵は教会を迫害しましたが、これも失敗。そして、敵の次なる作戦は、中に潜入する事です。

今朝、マーク牧師が「どのように背教が教会の中に入り込んでいるか」を明らかにされましたが、このように、敵はどうかして、女の子孫の存在を消そうと動いているのです。カインは、アベルに何をしましたか? 何もしていません。…すみません。殺そうとしました。アベルは何もしていないのに。モーセが生まれた時、パロはヘブル人の男の子に何を試みましたか? ——明らかに全員を殺そうとしました。

エステル妃の時代、ハマンはユダヤ人に何を試みましたか? ——全員を殺そうとしませんでしたか? イエスが生まれて数年後、ヘロデがヘブル人の男の子全員にしようとしたのは? ——もちろんです。このように、敵はどうかして、この女の子孫全体が世に出るのを抑えようとしただけでなく、彼が世に出ると、敵は彼を抹消しようとしてきました。興味深いことに、今でも敵は制圧し、迫害して、最終的にはイスラエル国家を根絶しようとしています。しかし当然、彼はまた失敗します。アーメン?

このように、まず、イエスが生まれないように、全一族を絶とうとし、そして、彼が生まれると、彼を殺そうとしました。それから、彼がもはや死なないとなると、彼をサタンの側に着かせようとしてきました。そして、彼がそちら側に着かないと、今度は彼を十字架で死なせないようにしました。だから、イエスはペテロに「下がれ、サタン。」と言ったのです。そして、もちろん、彼が十字架にかかり、業を終えられると、よみがえりです。すると今度は、人々がそれを信じないようにしよう、と。そして当然、イスラエルを滅ぼそうとするのは、イエスが戻って来る場所を失くすためです。聖書預言によれば、彼はイスラエルの民の為に、イスラエルの地に戻って来られますから。彼の足は、オリーブ山に降り立つので

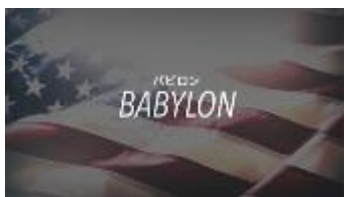
す。ダニエル 9:24 に、イスラエルの民とエルサレムに対する神の全計画が記されています。聖書預言の中で、世界中の出来事は、イスラエルとエルサレムと、その周囲に集中していて、そのために…考えてみてください。聖書の初めから終わりまで、聖書預言はイスラエルに関する事か、イスラエルの敵に関する事、イスラエルの神に関する事、もしくは、イスラエルのメシアについてです。アーメン？これが全てです。だから、私は今日、ここで皆さんと一緒に座って、もしくは皆さんの前に立って、聖書預言に関して、イスラエル国家とエルサレムの町から完全にかげ離れたことは教えません。イスラエルの神と、ユダ族の獅子がその中心です。



ダニエルの 70 週は、神がダニエルに与えられた全計画で、面白いことに、そのことについてダニエルは考えてもいなかったのです。

彼は、70 年のバビロン捕囚の後エルサレムに戻るという「祝福された希望」を、心待ちにしていました。しかし神は、それよりもはるかに大きな事を明らかにされました。そして私たちは、間

もなくイスラエルの民に訪れようとしている最後の週の前の、大きな白いギャップの中に現在います。なぜかと言えば、預言はイスラエルとエルサレムの町に関するものだからです。



もちろん、バビロンは第一の世界大国で、ユダヤ人の国としてのイスラエルを滅ぼそうとしました。それ以前のエジプトや、アマレク人の時、イスラエルはまだ、地を所有していなかったのです。しかし今、彼らはその地に住み、エルサレムにいます。そして、そこから何百マイルも離れた大国が、彼らを滅ぼしにやって来ます。そのバビロンの霊は、世代を超えて継続しています。見ての通り、預言者エレミヤは、とても大胆な預言者でした。実際に彼は、自分の国民の前に立って言ったのです。

12 ……「あなたがたはバビロンの王のくびきに首を差し出し、彼とその民に仕えて生きよ。…」

(エレミヤ 27:12)

あなたがたには、無理だ。バビロンに反乱しても、あなたがたには無理だ、と。もちろん彼は、今と違って、人気の預言者ではありませんでした。今日は、自称預言者の人たちは大人気ですけれどね。だから私は、「私はノン・プロフィット・団体（非営利団体=NPO/非預言者）の者です」とお伝えするのです(笑)。

ともかく、皆さんにお伝えしたいのは、エレミヤには、「あなたがたは、間違った木に向かって吠えている」と、イスラエルの前に立って告げるだけの根性があったのです。それだけではなく、さらにはバビロンの前に立って言いました。「言うておくが、あなたがたは間もなく滅ぼされる。」このように、エレミヤが神の御言葉に従って、バビロンの滅びを宣言しました。



そこで、私たちが疑問に思うのは、聖書預言に関してだけでなく、アメリカはどこにあるのか？ 預言はイスラエルとエルサレムを取り囲んでいますから。イスラエルとエルサレム、そのものです。なぜか

たとえば、ヨエル 3 章によれば、これこそが最終的に、神が世界中の全諸国を裁かれる事だからです。

- 2 わたしはすべての国民を集め、彼らをヨシャパテの谷に連れ下り、その所で、彼らがわたしの民、わたしのゆずりの地イスラエルにしたことで、彼らをさばく。彼らはわたしの民を諸国の民の間に散らし、わたしの地を自分たちの間で分け取ったからだ。

(ヨエル書 3:2)



このように、バビロンの次に、ペルシャが来て、ペルシャの後にギリシャが来ました。

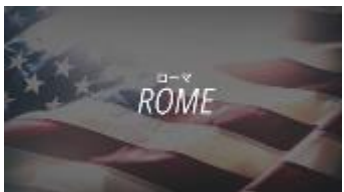
そして、参考までに言っておくと、これらの大国は通常、初めはユダヤ人を好み、イスラエルに非常に好意を持ったのです。

アレキサンダー大王は、エルサレムに入るにあたって、実際に大祭司に紹介され、神殿に誘導されて、預言者ダニエルの巻物を見せられたのです。ダニエル 10:20、ギリシャの王がペルシャの王を滅ぼす、と書いてある箇所です。想像できますか？彼は、ギリシャの王ですよ？しかも、ペルシャの王を滅ぼしたばかりです。それで彼は、この人たちは、あの書は、何かが全く違う、と感じました。彼らは独特だ、と感じたのです。そして実際に、彼らを守り助けるようにと命令を出したのです。

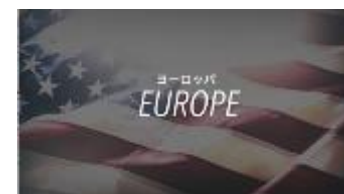


もちろん、敵は忍び込み、反イスラエル、反ユダヤの毒を注入し、女の子孫を絶やそうという敵の意思が、アレキサンダーの後継者の脳裏に入り込み、神殿を冒瀆し、豚を祭壇で殺すまでに至りました。それを清めるため、ユダヤ人は 8 日を要し、そのために私たちはハヌカを祝うのです。

これがギリシャです。ギリシャの次に、さらに多くの国が来て、ここを支配します。



ローマが来ました。紀元前 65 年に、ポンペイウスがエルサレム入りした時、像が一つも置かれていない神殿を、生まれて初めて見て、衝撃を受けました。彼には、大ショックだったのです。そして彼は、ユダヤ人を滅ぼすのではなく、援助するようにと命令を出したのです。しかし、ローマでさえどうなったか、私たちは知っていますね。しばらくしてから、彼らがエルサレムと、神殿までも滅ぼしました。

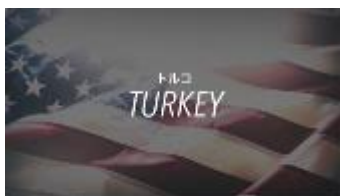


その次にビザンティン帝国が来て、もちろんそれはヨーロッパからで、次は西暦 638 年に、アラブ侵略。



それから、信じがたいことかも知れませんが、ムスリムたちも、最初その地を制覇した段階では、ユダヤ人の事が好きだったのです。事実、ムスリムのカリフが、ユダヤ人に、ユダヤ神殿のあった場所を尋ねました。彼は、その全く同じ場所に、岩のドームを建てたかったのです。私たちがイスラムの歴史を調べたところ、エルサレムの岩のドームでの、一番初めの礼拝は、ユダヤ人が捧げる神殿での礼拝と同じだったのです。彼らはそれほどまでに、当時のユダヤ人の神を礼拝する様に感嘆していたのです。事実、ムスリムたちは、彼らを「Ahl al-Kita/

書の人々」と呼んで守ったのです。「彼らに触れるな。」と。十字軍時代の後、近世にかけて、ユダヤ人たちが、異教徒と呼ばれるようになったのです。しかし初め、彼らは他の異教徒よりも上でした。



それからオスマン帝国、トルコ帝国です。言っておきますが、彼らもまたユダヤ人の恩恵を受けて、1481年から1512年まで、オスマン帝国を支配していたスルタン、バヤズィト2世は、ユダヤ教徒追放令によってスペインを追放されたユダヤ人達を迎え入れ、イスタンブール、テッサロニキ、イズミル等、彼の帝国全体に彼らを移民させただけでなく、ユダヤ人に対して間違っただけの扱いをしたり、傷つけた者には、死刑を課す命令を出し、彼らの安全を保障したのです。それだけでなく、彼はユダヤ人の事で、スペインの王に言ったのです。

「あなたは自分の事を、賢明な指導者だと言っているが、あなたの国を貧困にした者が、私の国を豊かにしたのだ。」

ユダヤ人を自国に入れることで、自分たちが豊かになったのだと、彼は気づいたのです。後に、ヨーロッパ帝国が占領した時でさえ、彼らは、他の何よりも、ユダヤ人の恩恵を受けました。



終わりに近づき、イギリスでさえ初めは、イスラエルに対してとても友好的でした。1917年には、バルフォア宣言が出され、今年100年目を迎えました。

皆さん、理解しておいてください。ほとんどの世界大国や帝国が、初めはイスラエルと友好的に始まったのです。その後、敵の意思、あの悪魔的サタンの霊が、女の子孫を絶とうとするのです。皆さん、理解しなければなりませんよ。彼らには現在、歴史の書き換えは出来ないのです。すでに起こった事は、取り消せないのです。しかし、最低限、将来起こる可能性のある事は、止めることは出来ると彼らは考えています。ですから、どうかして、イエスをご自分の民の所に戻って来させないようにするために、イスラエルを滅ぼすことは彼らの企てですが、お粗末な限りです。



イギリスが、第二次世界大戦を終えてすぐ、大国という立場のマントル(核)は、明らかに今度はアメリカに移りました。アメリカ合衆国です。聖書預言の中の大役への扉は、アメリカ合衆国に大きく開かれました。そして、イスラエルに敵対し、いずれ滅ぼそうとしたこれら全ての帝国の灰の中から、大国としてのポジションが興されました。イザヤ書 66:8~9

8 …国は一瞬にして生まれようか。…

9 …「わたしが産み出させるようにしながら、産ませないだろうか」…

(イザヤ書 66:8~9)

もちろん、生み出されます。果たして国家は、一日にして生まれました。

1948年5月14日、イスラエルには2つの選択肢がありました。

「悪い方」か。「もっと悪い方」か。

「悪い方」は、国家宣言をして、戦争に苦しむ。

「もっと悪い方」は、国家宣言をせずに、戦争に苦しむ。

彼らは、一つ目の方を選び、国家宣言をしました。そのほんの数時間前に、ホワイトハウスの回廊では、アメリカ大統領のハリー・トルーマンと、ジョージ・マーシャル国務長官の間で、物凄い緊張が高まっていたのです。信じがたいことですが、もしこれがアメリカ国務省次第であれば、イスラエル国家は誕生しなかったのです。彼らは争い、…しかし当然ですが、神に感謝な事に、大統領に最終権限があり、今日、私たちが見ているとおりです。今日、誰でもわかりますね。これが、小さな「ロケットマン」(金正恩)が理解していない事で(笑)、彼が理解しているのは、ホワイトハウスには、彼以上に狂った誰か



さんがいる、ということ(笑)。しかし皆さん、イザヤ書 66 章を理解しなければなりません。

ハリー・トルーマンが調印したのを見てください。彼らは、イスラエルの国の名前さえも分からなかったのです。この国の名前がどんな風になるのかさえ、彼らにはさっぱり分かりませんでした。だから彼らはどうしたかというと、

「この、パレスチナと呼ばれていたユダヤ人国家の、臨時政府から認識が要求されたため、アメリカ合衆国は、臨時政府を事実上の権力として認識する。」
これ、最初に彼らが何と書いたか、見てください。

「新しいユダヤ人国家」です。名前が分からなかったから。そして、それを×で消して、「イスラエル国」と書いたのです。それに、誰が調印したか？——ハリー・トルーマンです。(拍手)これが、聖書預言。これは、イザヤ書 66 章です。そして、これが、神のイスラエルへの働きかけに対する、アメリカの大きな役割の始まりです。

しかし、信じがたいことですが、時を経て、物事は正しい方向には動きませんでした。

1973 年、イスラエルはその暦の中で最も聖なる日、ヨム・キプールに攻撃を受けました。つい、先週の土曜日に、私たちも祝ったところでした。

1973 年 10 月 6 日は、物凄い日でした。言っておきますが、私たちはもう少しで諦めるところだったのです。ゴルダ・メイアは、すでにたっぷり薬を飲んで、すっかり眠っていたところへ、敵は、はるばるエルサレムの首相事務所までやって来たのです。信じられないでしょうが、それぐらい状況はひどかったのです。そして、我々が国務省に助けを求めた時、アメリカのユダヤ人国務長官ヘンリー・キッシンジャーは、ゴルダだったか誰かに言ったのです。

「イスラエルに、少し血を流させよう。」

そして、信じがたいかもしれませんが、ゴルダは…ゴルダはジャンさんのように気の強い女性でしたから(笑)、「NO」という答えは、一切受け入れませんでした。そこで彼女は受話器を取り、ホワイトハウスに電話をかけて、朝の 3 時にリチャード・ニクソンを起こしました。そして、彼女はこう言ったのです。

「大統領、もしアメリカがこの数時間のうちに来て助けてくれなければ、イスラエルはもう、なくなってしまうです。」

そして、私たちが聞いているのは、ニクソン大統領が言ったという、次の言葉です。彼は、夜中の 3 時に起こされたばかりでしたが、言ったそうです。

「ゴルダ、あなたに伝えたいことがあります。

私が小さい時、母が良く聖書の話を読んでくれました。ある日、聖書の話の途中で、母は止まって、こう言ったのです。

『リチャード、いつかあなたがユダヤ人を助けられる立場になったら、絶対に彼らを助けると私に約束してちょうだい。』

その時、私は子供ながらに、『はい』と言ったのです。そして今、たぶん初めて、なぜ今自分がアメリカ合衆国の大統領になったのか、理解できた気がします。」

(拍手)

それから皆さんにお伝えしたいのは、アメリカはイスラエルに合計 815 の部隊を含めて、56 機の戦闘機、27,900 トンの軍需品と必需品を再供給してくれたのです。そうして我々は押し戻し、生き残ることが出来たのです。だから、アメリカが聖書預言に出て来ないなんて、言わないでください。アメリカは、イスラエルの生き残りに重要な役割を果たしたのです。しかし、侵食は継続し、1970 年代、ジミー・カーターの国家安全保障問題担当大統領補佐官ズビグネフ・ブレジンスキー、ポーランド系アメリカ人の外交官は、自身の著書に書きました。彼が何と書いたか、見てください。

「人間の社会生活の基本的構成単位としての国民国家は、もはや主要創造力ではなくなった。国際銀行や国際企業が、国民国家の政治概念よりも、はるかに先進的な観点で活動し、計画を立てている。」

彼が言っていることは、基本的にこうです。

「私たちは、国家は時代遅れであるという事実を受け入れて、新しい制度に慣れなければならない。つまり、新世界秩序だ。」

ジミー・カーターの後はレーガンですが、少なくとも、イスラエルにとっては、彼は最高の大統領の一人です。(拍手) 彼の在任中の 1981 年、イスラエルはイラクの核原子炉を破壊しました。稼働直前だった、フランスの原子炉です。

皆さんにお知らせしたいことがあります。

1979 年、皆さんは F-16 をイランの国王に売る寸前でした。ところが、何が起きたかという、国王が失脚し、この注文を受けていた人が困っていたのです。だから私たちが、

「半額で購入しましょう。」

と持ちかけた。これがユダヤ式取引です。(笑) こうして我々は、皆さんの「バード」を入手して、我々独自の安全装置を装着、設備を搭載して、大きな旅客機の外見で…レーダーには、そのように映ります…はるばるイラクまで飛び、原子炉を破壊して、戻ってきました。国務省は、我々がアメリカ製の飛行機を使ったと、激怒し、ロナルド・レーガンは、にっこり微笑んで言いました。

「彼らがやらかした業の写真を見せておくれ。」(笑)

しかし、レーガンの後、ジョージ・H.W. ブッシュと呼ばれる男が出て来ました。ですね？そして、1989 年 5 月 22 日、ジェイムズ・ベイカー国務長官は AIPAC (イスラエル公共問題アメリカ委員会) に言いました。

「イスラエルは、その拡張主義政策を手放すべきだ。」

これによって、レーガンの親イスラエル時代は終わった、と多くの人が悟りました。

1991年3月6日、湾岸戦争の後、ジョージ・H.W. ブッシュ大統領は、議会の施政方針演説で、中東および全世界の新秩序を宣言し、イスラエルはもはや、自分たちにとって特別扱いの対象でもなければ支援の対象でもない、イスラエルは孤立している、と宣言。ジョージ・ブッシュ父による、アメリカの移り変わりをご覧ください。

「確かに我々は、決定的な時代に立っている。世界の反対側で、我々は大きく葛藤している。空で、海で、砂の上で。我々があそこにいる目的は、我々が知っている。我々アメリカ人は、自分たちよりも大きなものに属し、2世紀にわたって、自由のために必死でやって来た。そして今夜、我々は良識と人類への脅威を屈服させ、世界を引っ張っている。小さな一国に賭けるよりも、大きな考えがある。新世界秩序だ。その中では、多様な国々が全人類の願望の達成という共通の動機の下、寄り集まる。平和と安全、自由と法律による支配、このような世こそ、格闘する価値があり、我々の子どもたちの将来のために価値あるものだ。」



彼は、議会でそう言ったのです。そして直ちに、マドリード和平会議（中東和平会議）を召集しました。実に明確に見えますね。では、次へ進みましょう。



次に、こちらは1991年の我々の首相イツハク・シャミルです。そして、彼の後ろに座っているのは、誰だか分かりますか？当時イスラエル国連大使だった、若きベンジャミン・ネタニヤフです。シャミルの陰しい表情を見てください。アメリカは、湾岸戦争の間、39発のスカッド（弾道）ミサイルに対して、彼らが報復するのを認めなかつただけでなく、彼にはるばるマドリードまで行かせ、彼らと

パレスチナ間で地を分断するように、話し合わせたのです。



もし、これでまだ足りないようでしたら、続けて1994年、“男前のウィリー（ビル・クリントン）”がご覧の通り、強制的に、テロリストの君主ヤセル・アラファトと、戦争の英雄イツハク・ラビンとを握手させました。そして、これこそが平和（ピース：peace）だと信じ込ませようとした。しかし、piece by piece（一つ一つ）以外、何ものでもありません。

もし、これでもまだ足りなければ、彼の次に出て来たのは、ジョージ・W・ブッシュ。彼は、二国案の提示を止めず、平和への指針を掲げ、エフード・オルメルトとマハムード・アッバスを合意寸前まで持ち込みました。最終的には、両者によって拒まれましたが。





そして、これら全てが合わさったのが、オバマ政権ではないでしょうか。彼は、はるばるカイロまで来て、演説を行いました。その中で彼が言ったのは、

「イスラエルとパレスチナの子どもたちが、恐れなく育つ様子を、彼らの母親たちが見るためには、我々全員にすべきことがある。神の意図は、三

大信仰の聖地が平和の場となって、エルサレムがユダヤ教徒、クリスチャン、イスラム教徒にとって、安全な永遠の故郷となり、アブラハムの子どもたち全員が平和に共存する事であり、イスラエルの物語のように、モーセと、イエスと、ムハンマドの上に平和があり、共に祈る事である。」

アメリカ合衆国の大統領が、コーランの話を用いて、モーセとイエスとムハンマドが、どのようにして共に祈ったかを伝えました。

このように、一人は母親から聖書の話聞いて育ち、イスラエルを助けるように教えられ、もう一人は、誰からだか分かりませんが、コーランの話聞いて、それに基づいて行動しているのです。しかし、オバマとその政権の問題は、彼が非常にイスラエルに敵対していただけでなく、皆さんの想像をはるかに超えるレベルにまで、世界が彼を持ち上げていた点です。今、私が彼に関して言った事について、次の動画が参考になればと思います。ラスベガスで開催された音楽の祭典授賞式です。

「まず初めに、神に栄光を！そして、私たちの救い主、バラク・オバマに栄光を！バラク・オバマです！さあ皆さん、立ち上がって！」

皆さんの大統領が救い主となった時には、何でも、彼のすること全てが神からのものとされ、もはや、人間の行動ではなくなるのです。そこを理解しておいてください。そして、この国が、あらゆる局面で腐敗しているのを見て、それが分かりますが、さらに、2008年から2016年の間の、イスラエル支援を見て分かります。政治的に、彼は中東全土で、ほぼ全ての信頼を失いました。リビアに関して、シリアに関して、イランに関して、エジプトに関して、全てにおいて彼は、間違っただけに味方しました。全ての失敗は、その前のものよりも大きく、彼の味方全員が彼を「軽蔑した」どころではありません。それだけではなく、霊的には、アメリカの教会に対する激しい攻撃、世界中で、キリスト教は防衛しなければならなくなりました。そこで、私が考えていたのは、バラクとバラク。ある種、異なる2人の王が、自分たちは、肉体的には大して何もできない、霊的領域へ移行しなければならないと悟りました。私たちは知っての通り、モアブの王バラク（民数記22～24章）は、イスラエルの上に呪いを放つように命じました。肉体的な戦いでは敵わなかったからです。このように、霊的な局面で戦略がもたらされた時、どのように全てが悪化するか、ご覧ください。



アメリカのサタン崇拝は、あらゆる所の公共の場で、公然と行われるようになりました。こちらは、アメリカのサタン教会のウェブサイトです。バフォメットの黒い写真が見えるでしょうか。これが彼らのウェブサイト、アメリカ全土に広がっています。彼らは、アメリカ中の道路で行進し、公

然と、大衆の面前で、アメリカ人たちにサタンを崇拝するように呼びかけています。



事実、「動き、見よ。どの膝も、リリトにかがまない。」ちなみにリリトとは、神話の多産のカミのこと。このように、もはや地下で行われてはおらず、地上に出ているのがはっきりと分かります。

念のために言っておくと、サタン教会の本部は、マンハッタンの「ヘルスキッチン」

(Hell's Kitchen) と呼ばれる場所にあり、「クリントン」(Clinton) としても知られています。(笑)ただ、面白いな、と思いました。



また、皆さんにお伝えしたいのは、道徳的にも、アメリカはこの時期、どんどん墮落していきました。例えば、アメリカの性行為感染症の感染率は、工業化社会全体で最高です。シカゴの公立幼稚園の先生は、30分間の性教育を行うよう要求されています。未成年の妊娠率は、全工業化社会の中で、アメリカが最高。警察当局の見積もりでは、およそ60万人のアメリカ人が、児童ポルノの汚らしい画像をインターネット上でやり取りしているとのこと。また、彼らの見積もりでは、全ポルノの89%がアメリカで生産されているとのこと。アメリカの離婚率は、群を抜いて全世界のダントツ1位。アメリカの片親率は、地球上で最高。現時点で、アメリカの子どもおよそ3人に1人が父親不在の家庭に暮らしています。アメリカの大量殺人は言葉にならないほどで、1973年のロー対ウェイド裁判(書記注:「妊娠を継続するか否かに関する女性の決定はプライバシー権に含まれる」として、アメリカ合衆国憲法修正第14条が女性の墮胎の権利を保障していると初めて判示し、妊娠中絶を規制するアメリカ国内法の大部分を違憲無効とした、1973年のアメリカ最高裁の判決。)以来、5600万人以上のアメリカの赤ちゃんが国内で殺害されています。アメリカの中絶率は、西側諸国の中で最高です。ブランド・ペアレントフッドの創始者、マーガレット・サンガーは、かつて次のように言いました。

「家庭内の乳児に対して、その家族がしてやれる、最もあわれみ深い行為は“殺す”ことだ。」

ブランド・ペアレントフッドは、連邦政府から毎年毎年、何億ドルという資金を受け取っています。FDA(米国食品医薬品局)は、アメリカの医者や科学者が、3人の親から子どもを作りだすことを合法にするか、検討中。年間の現役アメリカ軍人の自殺者数は、今では戦死者の数を上回る。まだまだあります。こういった内容のリストが、私の手元に何百件はありますが、皆さんを落ち込ませるのが目的ではなく、ただ皆さんには理解しておいてほしいのです。そして、昨年の大統領選です。その前の月、私たちはここにおいて、現実を見れば、ヒラリー・クリントンが当選寸前でした。といっても、私たちは政治の話をするために、ここに集まっているわけではありません。(笑)違いますよ。ただ、皆さんにお知らせしたいのは、彼女は当選することになっていたのです。言い換えれば、支配層の中では、彼女は既にアメリカの大統領だったのです。彼女の写真が表紙になっていて、彼女がどのようにしてアメリカ合衆国の大統領になったのかを答えている、全インタビューが掲載されたニューズウィーク誌を、私は見ましたから。大統領選の一か月前に行われた、ジュリアン・アサンジ(書記注:ウィキリークス編集長)のインタビューをお聞きいただきます。トランプ当選の可能性はどれぐらいあるのか?と聞かれた後の、彼の言葉を聞いてください。

「私の分析では、彼の当選は許されていない。なぜ、そう言うか?それは、彼が全ての支配層を“オフ

サイド”にしたからです。トランプは、誰一人として支配層を入れていません。例外は福音派だけです。福音派を“支配層”と呼ぶなら、の話ですが。しかし、銀行、機密情報機関、武器販売会社など、彼らはトランプになってほしくないのです。全ての海外資本は裏でヒラリー・クリントンと結びついていますから。」

支配層は、衝撃を受けました。そして、福音派に後押しされたドナルド・トランプは、記録的な数で、それまでの疑念を辱めました。(拍手と歓声) 彼は、ただの事故ではなく、支配層にとっては大事故で、支配層は、計算のし直しが必要となりました。



そして、ドナルド・トランプという名の重大事故は、既に、彼の中東初外遊で表明しました。彼は、「現職大統領は、領有権問題のあるエルサレムを訪問し、嘆きの壁で祈ることは認められていない」等、国務省が何を言おうとお構いなしに、エルサレムを訪れ、中まで入って祈りました。彼は、全くゆるぎませんでした。(拍手)

では、現在の状況はどうでしょうか？現在は事故の結果、扉が、——聖書預言の大きな役割から去る扉が迫っています。なぜかという、アメリカはもはや、ハーメルンの笛吹き男の奏でる音楽ではなく、アメリカはもはやグローバリズムを推進しておらず、アメリカは今や、グローバル主義ではなく、公式に国家主義に向かっています。そのため、彼らはその働きを、別の所へ移行しなければなりません。それが、今日の次のメッセージですが、イスラエルを滅ぼす前に、まずは彼らに好意を持たせるバビロンの殻、世界政府にそれをさせようとするバビロンの殻。そのバビロンの殻が、今やアメリカからヨーロッパに戻りつつあります。それが非常に急速に起こるのを、私たちは現在目にしている、と私は思っています。

興味深いのは、もしアメリカがその役目から立ち退き、消えつつあるのなら、イスラエルはどうでしょうか。当然孤立します。イスラエルは生き残らなければなりません。そして興味深いのが、イスラエルがそこに至るようにされた、神のやり方です。考えてみてください。物凄い混乱した地域の中の、ニュージャージー州ほどの大きさの小さな国です。水はどうでしょう？命に関わる問題です。皆さん、こちらは5月13日の記事です。イスラエルは、この地域の水大国です。イスラエルは、水の再利用に関して世界最先端で、下水の87%を浄化して農業に再利用しています。皆さん、我々の所には可動式の脱塩機があり、地中海の海水をたった2時間で皆さんのコップに注ぎ、飲めるようにします。



これだけでなく、エネルギー資源に関して、神は、イスラエルが他の国を頼る必要のないようにされました。何百兆立方フィートという量の天然ガスが、地中海沿岸で見つかり、現在も、さらにどんどん発見しています。ゴラン高原で石油まで見つかりましたが、深すぎることで、難しい角度にあるため、

採掘方法が見当たらないので、「まあ良い。あっちにまだまだあるから、後で採掘しよう」と言っています。



これでもまだ足りなければ、世界最高の太陽塔をご覧ください。イスラエルの砂漠の真ん中に立っていて、砂漠で非常に多くの資源を生産しています。水といえば、イスラエルの企業が、空気から水を採取する方法を発明しました。

食料。農業労働者は、総労働人口のたった 3.7%ですが、イスラエルは食品需要量の 95%を自国で生産しています。すごくないですか？ところで、イスラエルの牛は「スーパーカウ」で知られていて、その生産量は世界最高です。牛の一头一头が、コンピュータ制御されています。

(Every “Mows” are computerized.) (笑)

軍事的には、皆さん見る必要もありませんが、多方面で中東最高位です。こちらのニュースをご覧ください。

「なぜイスラエルは、地上の軍隊の中で最高の技術を有するのか？」

ちなみにこれは、2010年1月29日の記事です。

もう一つお見せしましょうか。

「イスラエルが軍事大国である5つの理由」

技術的にはどうでしょうか。

「イスラエルはいかにしてサイバーセキュリティ大国になったか。」

これもまた、驚くべき事です。皆さんに理解していただきたいのは、神は、アメリカの時代の後、イスラエルが大丈夫なようにされた、ということです。皆さん、それを理解しておいてください。



神は、聖書預言成就のために、どのようにアメリカを用いられたか。大国としてのアメリカの政策は、この地図上の全ての国それぞれに影響を与えます。彼らはいずれ、聖書がエゼキエルやイザヤ等で告げているとおり、大きな役割を果たすためにやって来ます。つまり、現在大国としておかれているのがアメリカで、それが、ここに見られる、いずれイスラエルに攻めて来る、全ての国や機関に影響を与えているのです。

では、起こり得る可能性のある、4つのシナリオとは？アメリカが、大国としての舞台を降りることになる原因とは？確かに私は、聖書の中にアメリカを見ていません。聖書には、アメリカの名前は出て来ません。エゼキエル 38 章の「タルシシュの若い獅子」がアメリカだという意見もあります。その可能性はとても高いですが、仮にそうだったとしても、アメリカはただ攻撃を非難するだけで、何もしません。それなら、アメリカに何が起こるのでしょうか？何故アメリカは、その時完全にマヒしてしまうのでしょうか？

まず、外側から戦争が起こる可能性があります。

昨日のトランプの発言「嵐の前の静けさ」の一語一句を皆が計算しています。そして、ロケットマン（金正恩）は現在、理解出来なくて、汗をかいています。

それからもちろん、内側からの戦争も考えられます。私はこれほど国が分断するのを、今までに見たことがありません。ただ、皆さん理解しておいてください。分断は大変な事ですが、実は私は慰められています。というのも、他の国は自動的にひざまづく事に対して、皆さんはまだ、立ち向かっているから

です。分かりますか？議論や戦いは、ある人の思想にはまだ分別が残っていることを物語っているのです。しかし、それもいずれ消えて行きます。分断は辛いものです。そしてアメリカ国内には、億万長者によって後押しされている、あまりに多くの要素が存在していて、それが分断をもたらし、何らかの市民戦争に近いものを多数もたらしています。

次の非常に興味深い可能性は、一つの、または複数の自然大災害です。誰もが知る通り、ハリケーンが起きましたね。しかし、ハリケーンの季節には、ハリケーンが起こるものです。それが、時には大きかったり、激しかったりします。しかし、皆さんに知っておいていただきたいのですが、ほとんどの地質学者が、ハリケーンよりももっと大きな事を覚悟しています。現在活発化しているイエローストーンを除いても、噴火直前のものがいくつもあります。北西沿岸にはカスケード山脈があり、最低でもリヒター値9（マグニチュード9）が予測されています。また、アメリカ大陸の中央にあるニューマドリッド断層、それから、南カリフォルニアのサンアンドレアス断層。地質学者たちは、巨大地震による大惨事を予測していますが、それによってアメリカが滅ぶのではなく、それによって経済がしばらくの間麻痺し、アメリカが自国の問題に対処しなければならなくなる、と言います。

それから、希望の可能性を除いて、最も可能性の高いものは、経済的破綻です。言っておきますが、ここ数か月の間に、アメリカの超富裕一族によって、富がアメリカの外に移行しているのを私たちは目撃しています。彼らは、ヨーロッパの新天地に戻る準備をしているのです。ということで、4つのうちで、経済的破綻が最も可能性の高いシナリオといえるでしょう。

でも皆さん、もう一つあるのです。しかもそれは、希望のシナリオです。

ここにいる皆さんの全員が、これを理解されることを願いますが、これは、私たちが握りしめる事の出来るものです。なぜかと言えば、この希望こそが、祝福された希望だからです。

それはもちろん、教会の携挙です。（拍手）

考えてみてください。そして、ご自身で想像してみてください。私たちがいなくなった時、この国がどんな風になるか。だから私は、実にたくさんの美しいことで、皆さんを励ましたので（笑）、今、ここで私たちは自分が何者なのかを、思い出さなくてはなりません。聖書には、ピリピ人への手紙 3:20~21 にこうあります。

20 けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。

21 キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、**私たちの卑しいからだを**

.....

（ピリピ 3:20~21）

そうです。みんな卑しい体です。ご自分をつねってみてください。とんでもないですね。10年前の写真を見てください。言っておきますが、あなたは死に向かっています。（笑）

21 キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。

(ピリピ 3: 21)

ヨハネ 17 章には…ところで、私たちはここにいて、まだあちらには行っていません。それには、理由があるのです。ヨハネ 17 章には、イエスの祈りが記されていますが、彼は決して、「父よ。彼らをこの世から取り去ってください」とは祈りませんでした。そうではなく、彼は、

15 彼らを、この世から取り去ってくださるようというのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いします。

16 わたしがこの世のものではないように、彼らもこの世のものではありません。

17 真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。

18 あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。

19 わたしは、彼らのため、わたし自身を聖め、別ちました。彼ら自身も真理によって聖め別たれるためです。

(ヨハネ 17:15~19)

皆さんは目的があって一時の間、ここに置かれているのです。私たちは、福音を伝えなければなりません。

1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競争を忍耐をもって走り続けようではありませんか。

2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。…

(ヘブル 12:1~2a)

だから、私たちがまだここにいる間は、しっかりと働きましょう。

45 主人から、その家のしもべたちを任されて、食事時には彼らに食事をきちんと与えるような忠実な賢いしもべとは、いったいだれでしょう。

46 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見られるしもべは幸いです。

(マタイ 24:45~46)

ですから、私たちがここにいる間、いつ携挙が起こるのかと、いつも月や星や空を見上げていないで、実際に、御父の仕事に励みましょう。アーメン？

祈りましょう。

お父様、感謝します。あなたは、この国を様々な形で、言葉に出来ないほどに祝福してくださいました。しかしお父様、その祝福を多くの指導者たちが濫用し、多くの人が無駄にしてきました。お父様、私たちはあなたのご計画を知っています。あなたは、ご計画をあなたの子もたちに隠しておかれませんか。私たちは、何が迫って来ているかを知っています。そして今日、私たちは自分たちに与えられてい

る希望を握りしめます。約束された方は、真実であられることも、私たちは知っていますから。そして、その日が確実に近づいていることも、私たちは知っています。今日、アメリカ合衆国よりあなたを祝福し、私たちの祝福をあなたに送ります。全ての良い贈り物、全ての完全な賜物は、全ての光の父である、あなたから来ますから。そしてお父様、この真っ暗な世にあつて、私たちの牧者となってください、感謝します。私たちが誰なのか、何の目的のためにここにいるのかを理解させてくださり、ありがとうございます。私たちが最後まで競争を走れるように、忍耐をお与えください。私たちの信仰の創始者であり、完成させてくださる、イエシュア、イエス様に、私たちが毎日目を向けていられますように。

ヴェイシェメレハー

アドナーイ

イエヴァーレフハー

וְיִשְׁמְרֶךָ

יְהוָה

יְבָרְכֶךָ

..(主が)あなたを守られますように

主が

あなたを祝福し

ヴィーフネツッカー

エーレーハー

パーナーヴ

アドナーイ

ヤーエール

וְיִתְנֶךָ

אֵלֶיךָ

פְּנֵי

יְהוָה

יָאֵר

..(主が)あなたを恵まれますように

あなたに(向けて) 御顔を

主が

照らし

シャーローム

レハー

ヴェヤーセーム

エーレーハー

パーナーヴ

アドナーイ

イッサー

שְׁלוֹם

לְךָ

וְיִשֶׁם

אֵלֶיךָ

פְּנֵי

יְהוָה

יִשָּׂא

平安を

あなたに (主が)賜るように

あなたに(向けて) 御顔を

主が

上げて

24 主があなたを祝福し、あなたを守られますように。

25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。

26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

(民数記 6:24~26)

私たちの理解をはるかに超える平安、唯一、平和の君から来る平安です。この暗やみの時代、この国で、私たちにこの平安があることに感謝します。

イエシュアの御名によって。

全ての神の民は言います。

アーメン。